

**第1回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会
議事要旨**

日 時 2017年11月14日(火) 18:30~20:00

場 所 市庁舎 10階会議室

出席者

川崎登志喜 委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
浪越 一喜 委員(副会長)	帝京大学教育学部 教授
間野 義之 委員	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
山本 正実 委員	一般財団法人 町田市体育協会 理事長
大友 健寿 委員	株式会社ゼルビア 事業部 部長
関野 淳太 委員	株式会社 CASCABEL FUTSAL CLUBE 事業部 部長
永友 洋司 委員	キヤノンラグビーフットボールクラブ ゼネラルマネージャー
安部 徹 委員	町田市スポーツ推進委員 会長
市川 健一 委員	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 副会長
安達 廣美 委員	町田市町内会自治会連合会 会長
大久保 明 委員	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会 事務局長

欠席者

鹿沼 由理恵 委員	市内在住トップアスリート(リオパラリンピック銀メダリスト)
岡田 栄 委員	NPO法人 CCCNET 事務局長
佐藤 正志 委員	町田商工会議所 専務理事

事務局

文化スポーツ振興部長 能條 敏明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 石田 一太郎
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長 渋谷 晴久
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長 伊奈 誠
文化スポーツ振興部スポーツ振興課統括係長 根岸 良美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 清水 明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 喜多 和則
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 鈴木 朝子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 松尾 哲平
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事 地福 友美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事 石川 典子
政策経営部長 小島 達也
政策経営部企画政策課長 田中 善夫
都市づくり部長 神蔵 重徳
都市づくり部公園緑地課長 杉山 祐介
都市づくり部公園緑地課公園管理担当課長 高梨 光之

傍聴者 16名

議事

1. 開会
2. 委員紹介
3. 事務局より
4. 会長及び副会長の選出
5. 意見交換
 - ・既存計画の説明
 - ・町田市のスポーツ施設の現状と課題について
6. 閉会

配布資料

- ・次第
- ・設置要綱 ……資料 1
- ・委員名簿 ……資料 2
- ・町田市のスポーツ施設の現状 ……資料 3
- ・国や東京都の動向及び観戦環境充実のための諸条件 ……資料 4

議事要旨

1. 開会

事務局からあいさつのち、委嘱式が行われた。

高橋副市長からあいさつが行われた。

2. 委員紹介

各委員から自己紹介が行われた。

3. 事務局より

事務局から、配布資料の確認と懇談会の目的・概要の説明が行われた。

4. 会長及び副会長の選出

委員の推薦により、川崎登志喜委員が会長、浪越一喜委員が副会長となった。

5. 意見交換

・既存計画の説明

事務局が資料3を基に説明を行った。

川崎委員 施設の建設時期をあらためて説明してほしい。

事務局 野津田公園は陸上競技場が1990年に完成している。その後2009年から2014年にかけてメインスタンド等の改修を行い、現在の状況となっている。

小野路球場は2006年に完成し、2011年にスタンド等の整備を行っている。その後、2013年に電光表示盤を設置、2017年に夜間照明設備を整備し、現在の状況となっている。

室内プールと総合体育館は1990年の開設となっている。

・町田市のスポーツ施設の現状と課題について

川崎委員 町田のスポーツ施設について、「観る」視点を含めて、日頃感じていることを伺いたい。

安部委員 総合体育館ではプロスポーツのほか、バスケットボールやバレーボールの全国大会など様々な大会が開催されている。体育協会加盟団体の優先利用や学校利用が優先利用など、優先順位を考える必要があるのではないか。

また、体育館の床面が国体に向けて改修されたが、今後どのような整備計画を市は考えているのかを聞けるとよい。

川崎委員 優先順位など、体育館の利用状況について事務局から説明いただきたい。

事務局 体育協会にとりまとめと調整を委託している。利用を希望する団体は、毎年8月末を期限に次年度の利用申請を体育協会に提出する。その後、体育協会が調整したものを市が確認し、体育協会から承認通知を発送するという方法を取っている。優先順位については、市の事業やホームタウンチームの利用など市と協定を締結した事業の優先順位が高く、次いで、体育協会加盟団体の事業、非加盟団体の事業という順番となっている。体育協会加盟団体同士で利用希望が重なる場合は体育協会が調整を行っている。

市川委員 障がい児（者）は公園、体育館、プールの利用が多い。身体障がい者の施設へのアクセスは車がメインとなるため、駐車場の確保や施設のバリアフリー化について気になっている。高齢者が車椅子生活になり得る状況も考慮し、ユニバーサルデザインのスポーツ

施設を整備していくことは重要と考えている。

学齢期は学校中心にスポーツの環境があるが、卒業すると身体を大きく動かすことができる環境がない。晴天時は屋外でのウォーキング等を行うことができるが雨天時は場所がなく、プログラムが組みづらいという課題がある。

安達委員 施設整備には大きな予算が必要となる。大きな大会が開催できる競技施設の整備を考えているのか。また、駐車場の確保なども必要になると思うが、市はどこまでの整備を考えているのかを伺いたい。

大久保委員 観光振興の視点からどのように競技場に来ていただいて、お金を落としていただくかを考えている。資料3の4つの施設のうち駅から徒歩でアクセスできるのは総合体育館のみとなっている。歩いてのアクセスが難しいとなると、市内の路線バスが1つの交通手段となると思う。しかし、バスでのアクセスの方法を知らない人も多いと感じている。スポーツを見てもらう前に、まずはどうやってこれらのスポーツ施設に来ていただくかを考えることが重要なのではないか。

山本委員 災害時の避難場所等に指定されている公共施設があると思うが、資料3の4つの施設はそういった条件を満たしている施設なのか。

川崎委員 施設の災害時の対応等について、事務局から説明いただきたい。

事務局 昭和56年以前に建設された施設には耐震診断が必要となるが、総合体育館はその後に建設されており、新耐震基準を満たしている。避難所という視点では総合体育館は以前、地域の避難所に指定されていたが、地域防災計画の見直しに際して緊急物資の集積所という位置付けとなっている。

山本委員 既存施設の老朽化は大きな問題だと感じている。一方で、来年度の施設利用の申し込みが殺到しており、施設が全体的に足りていないとも感じている。野津田公園の整備がどのように進展していくか気になっている。

大友委員 FC町田ゼルビアというチームはスポーツというツールにおいて、国、東京都、町田市が目指す方向性の中でよい素材になっているのではないかと考えている。Jリーグにおいては、地域の活性化、市民とともに夢を見るということを考えると、さらに上を目指していきたいと考えている。J2ではVファーレン長崎が昇格し、全国的にも大きな盛り上がりを見せている。FC町田ゼルビアももっと全国に情報を発信し、より多くの人にスタジアムに足を運んでもらいたいと考えており、施設の充実が今後さらに進むとよいと考えている。

関野委員 ホームタウンチームとして体育館を利用させていただいている。施設のアクセスに関しては、Fリーグの中でも墨田区か町田市かというくらい好立地となっている。一方、築27年ということで、建設当時はそもそも興行スポーツを目的としたつくりではなかったかと思われるので、選手たちの諸室や大型ビジョン等が足りないと感じる部分もある。最近は大相撲やプロレスなど興行としてのスポーツも行われている。今後も興行スポーツを誘致して収益をあげていくことを考えるのであれば、「見る」スポーツ施設としての整備はもう少し必要になるのではないか。

永友委員 交通のアクセスについて意見が出ていると思うが、多くの子ども達にスタジアムに来てもらうことも重要だと感じている。また、開催される種目に限らず、施設には「サービス」と「安心」が求められると考えている。「サービス」では例えば「女性に優しい」と

いう視点でトイレを改善したり、今流行りの「インスタ映え」を意識した取組も重要になると考えている。「安心」という面では、選手たちが利用するフィールドの整備も重要になると考えている。また、専用のスタジアムにするという考え方も大事だと思う。また、視点が変わるが、例えば室内プールでサーフィンができるような取組を行うなど、施設の利用方法について、発想を転換して、より多くの人に訪れてもらう工夫も大事だと考えている。

間野委員 「見る」スポーツにフォーカスして施設を考えていくということは非常に開明的だと感じており、敬意を表したい。これまでは43万人の市民の「する」スポーツを中心に、身体活動量をどう増やすかということを考えてきたかと思う。人口が微増で若年層の増加率が高いこと、国の働き方改革といった流れをふまえ、町田市の次の都市戦略として、スポーツを活用して町田で暮らす人々の生活をどうデザインしていくかを考えているのかと思う。

「見る」スポーツについて最近の海外の例をみると、スタジアムでは試合を見ていない人も多くいる。例えばNFL アトランタ・ファルコンズの新スタジアムでは、観客席以上に付属のレストランもかなり充実しており、多くの人でにぎわっている。施設に来る人は、チームの勝敗だけでなく、感動体験や経験価値を求めていることがわかる。そこにもしっかりとフォーカスしていくことが重要だと考えている。町田市は、そういった特別な経験価値を得られる環境にある。

また、スポーツチームは質の高い試合、エンターテインメントだけでなく、スタジアムを訪れた人に素晴らしい感動体験を与えて、経験価値にふさわしい取組を行うことも重要であり、観客のスペースを改良していくことは重要だといえるのではないかと。スポーツを核としたまちづくりの中で、野津田の競技場と総合体育館は、まだスタジアムとアリーナと言えない部分もあると思う。今後そういった施設へどのように整備していくかを、知恵を出し合っているとよい。

経験価値ということを見ると、スポーツ以外に音楽や演劇やミュージカル、ショーやお笑いなど様々なものがある。町田の多様な市民がスポーツを中心としながら、町田に住みたい、町田で働きたいと思えるよう、町田の魅力を高めていくという視点が今後重要と考えている。

トップリーグに所属する3つのチームがあることをどう活かしていくかも重要である。お金さえあれば観客席の増席など施設の拡充はできてしまうが、もう一つの段階で、町田のエンターテインメント性のある都市戦略を実行するためにはどのような装置が必要なのかという発想あってもよいのではないかと。

浪越委員 町田市内の施設を見学し、「見る」スポーツに関わる施設と「する」スポーツに関わる施設があると感じた。例えば小野路の球場は市民が「する」ための場であり、観戦環境を充実することが必ずしも必要とは感じなかった。室内プールについても、観客席がありマスターズ大会等も開催されているが、トップレベルの選手を集めて観客席を充実するよりは市民がスポーツをする場所、スポーツを通して交流する場という位置付けが重要と感じた。

野津田の競技場については、よい施設だと感じたが平日にほとんど人がいないことが気になった。大会等の開催時に人がいることは重要だと思うが、日頃から人が集う場にな

っているとよいと感じた。

例えば立命館大学「BKC スポーツ健康コモンズ」にある「超指向性スピーカー」のような、一定の位置にしか音が届かない音響設備を導入して、ダンス等を行うグループが複数活動できる環境を整備してもよいかもしれない。陸上競技やサッカー以外でも人が集い、施設を身近に感じられる町田ならではのしかけができるとよい。

大友委員 野津田へのアクセスについての情報共有だが、Jリーグの他チームを見ると最寄り駅からスタジアムまでの距離は他チームの状況と比較して特別距離があるわけではない。例えば浦和レッズのホームスタジアムまでは、最寄り駅から徒歩では35分ほどである。野津田公園は小田急線鶴川駅、京王線多摩センター駅、JR横浜線淵野辺駅の3つの駅のへそに位置している。こういった状況をうまく生かす工夫が必要だと感じている。

川崎委員 J1のチームでも町田より不便な場所にホームスタジアムの立地しているケースもある。無料シャトルバスなど、様々な工夫が行われている。

浪越委員 最寄り駅とスタジアムの間に何かしかけがあり、徒歩も苦にならないような事例はあるか。

大友委員 例えば埼玉スタジアム2002は道が広く、道沿いに飲食等の出店もあり、歩ける工夫がなされた環境だと思う。

スタジアムの中については、装飾等で来場者の気分を高揚させる取組を行っているクラブもある。しかし、まだ多くのクラブはそういった取組が十分にできていない状況がある。野津田に関してもソフト面での改善の余地はまだあるのかもしれない。

川崎委員 アクセスがよいとされる総合体育館については、何か工夫がなされているのか。

関野委員 今年、体育館までの距離表示にペスカドーラのエンブレムをあしらった案内を設置していただいた。また、体育館と駅の間に商店街があることから、商店街とコラボしてスタンプラリー等の取組を実施した。短い距離の中でも地元を楽しんでもらう取組も重要と考えている。

間野委員 無料シャトルバスは様々な場所で取り組まれていると思うが、ドジャー・スタジアムを訪れた際には、「Uber」というシェアリングエコノミーの利用も多くみられた。セグウェイや無人運転など、最先端の実験に取り組むことも視野に入れてもよいのではないか。アトランタにあるサントラスト・パークという野球場では、完全にまちを1つ作っている。球場の付近にオフィスやマンション、映画館等の商業施設や駐車場もある。都市計画変更をして、野津田付近を第2新都心にするなど、民間を巻き込み長期的な展望を持つこともアイデアとしてはよいかもしれない。

川崎委員 まちづくりの視点も大事だと考えている。

先ほど総合体育館が緊急物資の集積所という話があったが、野津田を避難場所として位置づけてもしもの時にも市民が足を運べるシンボルになることも重要と思う。

次回の懇談会のテーマについては事務局と検討してあらためてアナウンスしたい。

6. 閉会

事務局 第2回懇談会は12月19日(火)18:30から、場所は市民協働おうえんルームを予定している。懇談会のテーマについては会長と相談のうえ、事前に案内を行う。

以上